

事業報告書 (令和 5 年度)

事業名 種や食の安全に関する学習会

団体名 たねをまもる会おかやま 担当者名 下山田桂

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

現在日本が直面している世界的な食料危機と日本の食料自給や食の安全保障のために岡山においてできること、また食や農を守るために私たちは何ができるのかを東京大学大学院農学生命科学研究科教授の鈴木宣弘先生を講師にお招きして学んだ。

1 講座概要

名称 食と農の今と未来 鈴木宣弘先生講演会

開催日 令和 5 年 6 月 24 日 (土) 13:00~15:00

会場 津山圏域雇用労働センター 大ホール

参加者数 会場参加は 176 名、オンライン 104 名、合計 280 名 (スタッフ含む)

鈴木宣弘先生の主張概要

コロナパンデミックや昨年春から今も続くウクライナ危機により、原油・化学肥料の原料や購入飼料の値段が高騰している。また、物流の停止が起こった場合、現状自給率 80%の国産野菜も、種子は 90%が海外生産であることを考慮すると 8%、鶏卵においては自給率 97%だが、輸入による餌が止まれば 12%。さらに、化学肥料の原料のリン、カリウムが 100%、尿素は 96%が輸入依存であり、これらの調達ができなければ国内生産は壊滅状況に陥る。

また、食の安全の観点では、多国籍大企業が種子生産市場を独占し、これらの企業による遺伝子組換えやゲノム編集による種子・農作物が増えていく可能性は十分にあり、食の安全は担保されなくなると予測される。

これらの状況の中で、私たちがいまなすべきことは、地域の種子を守り、生産から消費まで「運命共同体」として地域循環的に「食と農」を支えるローカル自給圏を皆で大切に育て、農家と住民が一体となり「食と農」を守ることが必要である。

内容

鈴木先生の準備くださったスライドの枚数は 132 ページで、食と農について日本が置かれている現状について、たくさんの情報共有をしていただいた。

当日は、開始時間ギリギリまでオンライン peatix での申込が続き、会場への予約なしでの参加の方も 32 名を超え、ぎりぎりまで椅子の追加をしながら、会場いっぱいの参加者を迎えての講演会の開催となった。

岡山県、津山市、ESD 推進協議会、JA 晴れの国岡山、グリーンコープ生協おかやまからの

(様式第 8 号)

後援をいただき声掛けも積極的に行ったため、幅広く各方面からの参加があり、消費者、農業者の参加も多かった。事前に県内の全議員 520 名にご案内をお送りした結果、県内各地より 11 名の議員の参加があった。

オンラインでの同時配信も行い、後日、参加者の方々には、記録した動画を編集し共有した。



2. ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

食と農に関して、鈴木先生からは過去の歴史、幅広いデータを駆使し、卓越した分析力により危機に瀕している日本の食の現状に警鐘を鳴らすお話しをしていただき、それに呼応して、参加者も真剣に聴講され、危機感を共有されたようだった。(アンケート結果参照)

②どのように学び合いを取り入れたか

講演会運営に協力していただいた団体の学習会の協力を行った。

(1) 事前の学習会を昨年度に引き続き、講演会の共同主催者である岡山の食と農を守る会のメンバーとともに実施し、「食料安全保障」や「食の安全」についての学習会・交流会を行った。

日時 4月29日(土) 14:00~17:00

場所 津山市総合福祉会館(津山市山北520)

主催 岡山の食と農を守る会

(2) 講演会スタッフの働きかけにより、グリーンコープ生協おかやまの協力を得て、「たねは誰のもの」の上映会の協力を行い、種子法種苗法を取り巻く岡山での動きのお話をさせていただきました。

日時 7月4日(土) 14:00~17:00

場所 湯郷地域交流センター(美作市湯郷 826)

主催 グリーンコープ生協おかやま作州地区委員会準備会

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

講演会終了後の交流会には、参加者のうち 22 名+スタッフが残り交流を行い、今後も地域の種子を守り、生産から消費までを地域循環的に食と農を支えるローカル自給圏を皆で大切に育てていきたいという話をして、新たに LINE グループを作成し繋がりをつくることができました。



3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)

来場者数の多さからも、本講演会のテーマである食料安全保障について、関心を持っている人が多いことが分かった。また、そのことで勇気づけられる思いがしたという声も聴かれた。

アンケート結果の中で多かった声は、「農家を守るためにできることを考えていきたいと思った。」「知ることの大切さ、行動すること。これからも勉強していきたい。」など、農家支援と学びを続けたい、というものだった。

実際に当日会場にて鈴木先生の著書「世界で最初に飢えるのは日本」の注文予約をとったところ、その場で 60 冊を超える注文をいただいた。

また、参加者の方の中から、地元で鈴木先生をお呼びして講演会を開催したいという声も上がった。

4. 今後の課題と展望(事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか)

鈴木先生のお話の中であったように、岡山のローカル自給圏の構築を第一に、農家と消費

(様式第 8 号)

者が繋がり、お互いに困りごとを助け合えるような試みを探ってゆきたい。

企画進行中のプランとしては、下記の情報の見える化をすること。

①有機栽培や自然栽培の農作物や加工品の販売所

②体験可能な農園

③地球環境にやさしい商品を扱うマルシェ

農業者と消費者の交流を活発にすることで、地元の農家のファンを増やしてゆきたい。